

第11講	助動詞(6)	50
第10講	助動詞(5)	46
第6～9講のまとめ		42
第9講	助動詞(4)	38
第8講	助動詞(3)	34
第7講	助動詞(2)	30
第6講	助動詞(1)	26
第1～5講のまとめ		22
第5講	形容詞・形容動詞・係り結び	18
第4講	動詞(2)	14
第3講	動詞(1)	10
第2講	古文入門(2)	6
第1講	古文入門(1)	2
第12講	助動詞(7)	54
第13講	助詞(1)	58
第14講	助詞(2)	62
第15講	紛らわしい語の識別	66
第10～15講のまとめ		70
第16講	敬語(1)	74
第17講	敬語(2)	78
第18講	敬語(3)	82
第19講	漢文入門	86
第20講	漢詩	90
第16～20講のまとめ		94
付録—文語文法要覧		98

第10講 助動詞 (5)

学習のポイント1 〈伝聞・推定〉の助動詞「なり」

【活用】ラ変型

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
なり	○	なり	なり	なる	なれ	○

【接続】活用語の終止形（ラ変型活用語は連体形）に接続する。

【意味】

a 〈伝聞〉 ～ソウダ・～トイウ

〔例〕駿河の国にあるなる山なむ、この都も近く、

〔『竹取物語』〕

〔駿河の国にあるという山は、この都も近く、〕

※「ある」はラ変動詞「あり」の連体形。

b 〈推定〉 ～ヨウダ

〔例〕奥のかたより、「何事ぞ」といらふる声すなり。

〔『宇治拾遺物語』〕

〔奥の方から、「何事か」と答える声がするようだ。〕

※「す」はサ変動詞「す」の終止形。

⊗人から聞いた話をもとに話しているときは「伝聞」、単に音や声を聞いて判断したことを述べているときは「推定」の意味。

学習のポイント2 〈推定・婉曲〉の助動詞「めり」

【活用】ラ変型

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
めり	○	(めり)	めり	める	めれ	○

【接続】活用語の終止形（ラ変型活用語は連体形）に接続する。

【意味】

a 〈推定〉 ～ヨウダ

確認問題 1

(1) 次の表の空欄①・②に入る語を答えよ。

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
なり	○	なり	なり	①	②	○

(2) 次の文の傍線部の「なり」について、文法的意味を答えよ。

① 又きけば、侍従の大納言の御むすめ、なくなり給ひぬなり。

〔 〕

② あきの野に人松虫のこゑすなり我かと行きていざ訪はむ

〔 〕

❖ ①「又きけば」とあり、人から聞いた話をもとに述べている。

② 虫の声を聞いて述べている。

確認問題 2

(1) 次の文の現代語訳について、空欄に入る語を答えよ。

・ことに頑なる人ぞ、「この枝、かの枝、散りにけり。今は見どころなし」などは言ふめる。

〔もの的情趣を理解しない人は、「この枝もあの枝も、もう散ってしまったのだなあ。今は見所はない」などと言う 〕。〕

〔 〕

例 さ侍り。面白の駒侍るめり。〔落窪物語〕

〔そうです。面白の駒（男性のあだ名）がいるようです。〕

※「侍る」はラ変動詞「侍り」の連体形。

b 〈婉曲〉 ～ヨウダ

例 もののあはれは秋こそまされと、人ごとと言ふめれど、  
〔もののおあわれは秋こそが勝つていと、皆言うようだが、〕

※「言ふ」はハ行四段活用動詞「言ふ」の終止形。

⊗〈伝聞・推定〉の「なり」と「めり」は、ラ変型の活用語に接続したとき  
に、その活用語が撥音便化という変化を起こすことがある。

例 ラ変動詞「あり」＋「めり」＝「あるめり」↓「あんめり」「あめり」

学習のポイント3 〈断定〉の助動詞「なり」「たり」

〔活用〕形容動詞型

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
なり	なら	なり	なり	なる	なれ	なれ
たり	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ

〔接続〕「なり」は体言または活用語の連体形に接続する。

〔たり〕は体言にのみ接続する。

〔意味〕

a 〈断定〉 ～デアル

例 妻戸を今少し押し開けて、月見るけしきなり。〔徒然草〕

〔妻戸を少し押し開けて、月を眺める様子である。〕※「けしき」は体言。

例 忠盛備前守たりし時、〔平家物語〕

〔忠盛が備前の国の長官であった時、〕※「備前守」は体言。

b 〈存在〉 ～ニアル・～ニイル（「なり」のみ）

例 向かひなる棟の木に、法師の登りて、〔徒然草〕

〔向こうにある棟の木に、法師が登って、〕

※「向かひ」は「向かい側」を表す名詞。

(2) 次の文の傍線部「めり」について、活用形を答えよ。

① 人知れぬ人待ち顔に見ゆるは誰が頼めたる今宵なるらむ

② 子になり給ふべき人なめり。

確認問題 3

(1) 次の表の空欄①②に入る語を答えよ。

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
なり	なら	①	なり	②	なれ	なれ

(2) 次の文の傍線部「なり」「たり」の、活用形と文法的意味を答えよ。

① 北の方の御ままだて、わりなきこと多かりけり。

② 御前なる獅子、狛犬、背きて後ろさまに立ちたりければ、

③ もとは兵衛尉たりしが、

④ 「御前」も「獅子」も名詞。

⑤ 「兵衛尉」は官職名。「し」は過去の助動詞「き」の連体形。

基本問題

1 次の文中から、〈伝聞・推定〉の助動詞「なり」、〈推定・婉曲〉の助動詞

「めり」、〈断定・存在〉の助動詞「なり」、断定の助動詞「たり」を、そのま

まの形で抜き出し、文法的意味を答えよ。

- (1) 我のみや夜船は漕ぐと思へれば沖辺の方に楫の音すなり
- (2) (光源氏が) のぞき給へば、…… (尼君が) 簾すこし上げて、(仏に) 花

(3) 清盛公、いまだ安芸守たりし時、

(4) よろづのことは、月見るにこそ慰む物なれ。

2 次の文中の傍線部の助動詞について、ここでの活用形と文法的意味を答え

(1) 今ひときは心も浮きたつ物は、春のけしきにこそあめれ

(2) 吉野なる夏実の川の川よどに鴨ぞ鳴くなる山陰にして

(3) 仏はいかなる物にか候ふらん。

Blank lines for answers to Question 1 and 2.

3 傍線部の助動詞に注意して、次の現代語訳の空欄に入る語を答えよ。

(4) 男もすなる日記といふものを女もしてみむ、とて、するなり。

(5) 品、かたちこそ生れつきため、

(1) 少しのことにも先達はあらまほしきことなり。  
〔少しのことにも導いてくれる人はいてほしいこと〕

(2) 信濃なる浅間の嶽にたつ煙をちこち人の見やはとがめぬ  
〔浅間山に立つ煙を、遠くや近くの旅人が見て、(何だ

ろうかと) あやしまずにいられようか〕

(3) 「奥山に猫またといふ物、人を食らふなり」と人の言ひけるに、  
〔奥山に、猫またというもの(がいて)、人を〕「と人が  
言ったところ、」

(4) いでや、この世に生れ出でば、願はしかるべきことこそ多かめれ。  
〔さて、この世に生まれ出たからには、そうなってほしいと思うことが

〕。

Blank lines for answers to Question 3.

演習問題

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

七月十五日の月に出であて、せちに物思へる気色なり。近く使はるる人々、竹取の翁に告げていはく、「かぐや姫の、例も月をあはれがり給へども、このごろとなりては、ただことにも侍らざめり。いみじくおぼし嘆く事あるべし。よくよく見たてまつらせ給へ」と言ふを聞きて、かぐや姫に言ふやう、「なんぞう心地すれば、かく物を思ひたるさまにて、月を見たまふぞ。うましき世に」と言ふ。かぐや姫、「見れば、世間心ほそくあはれに侍る。なでう、物をか嘆き侍るべき」と言ふ。

かぐや姫のある所に至りて見れば、なを物思へる気色なり。これを見て、「あが仏、何事思ひたまふぞ。おほすらんこと、何事ぞ」と言へば、「思ふこともなし。物なむ心ほそくおほゆる」と言へば、翁、「月な見給ひそ。これを見給へば、物おぼす気色はあるぞ」と言へば、「いかで、月を見てはあらん」とて、猶、月出づれば、出であつづ嘆き思へり。夕やみには、物思はぬ気色なり。月の程になりぬれば、猶、時々はうち嘆きなどす。これを、使ふものども、「なを、物おぼす事あるべし」とささやけど、親をはじめて、何ごととも知らず。

問一 傍線部①・②の助動詞の、ここでの活用形と文法的意味を答えよ。

① [ ]  
② [ ]

問二 波線部aについて、次の現代語訳の空欄に入る語を答えよ。

〔普通では [ ] ございます。〕

[ ]

問三 波線部b「嘆き思へり」の主語を本文から抜き出して答えよ。

[ ]

重要古語チエツク

次の各文について、現代語訳の空欄に入る語句として適切なものを、それぞれ後のア〜エの中から一つ選び、記号で答えよ。

(1) わりなし

なほわりなく恋しうのみおぼえければ、〔伊勢物語〕

〔やはり [ ] 恋しくばかり思われたので、〕

ア どうしようもなく イ いじらしく

ウ 以前より エ 途切れることなく

(2) をかし

月の夜はねやのうちながらも思へるこそ、いとたのもしう、をかしけれ。〔徒然草〕

〔秋の〕月夜には寝所にいながらも（月を）思っているのが、とても期待で

きて [ ]。

ア 立派だ イ 笑いそうだ

ウ 趣深い エ 変だ

ア 明らかに イ 露骨に

ウ ひそかに エ ちよつと

(3) あからさまなり

あからさまに物へ行くときでも、……など言ひ置ければ、〔宇治拾遺物語〕

〔 [ ] どこかへ行くときでも、……などと言っておいたので、〕

ア 明らかに イ 露骨に

ウ ひそかに エ ちよつと

(4) あてなり

世界のをのこ、あてなるもいやしきも、〔竹取物語〕

〔世の中の男は、 [ ] のも身分の低いのも、〕

ア 頼りになる イ 下品な

ウ 珍しい エ 身分が高い

(5) あはれなり

乳母亡くなりし折ぞかしのみあはれなるに、〔更級日記〕

〔乳母が亡くなった頃であるよとばかり思われて [ ] が、〕

ア しみじみと悲しい イ おもしろい

ウ かわいい エ 感心だ